

学校だより 6月 NO.3

http://www.funakoshi-e.educity.hiroshima.jp/ 広島市立船越小学校 平田健三
コミュニケーション, かかわりあい を大切に

ぼくだけは・・・ これくらいなら・・・ 1回くらい・・・

学校の周囲はいつも清掃がゆきととききれいで気持ちがいいです。地域の方たちが道路のゴミを掃いて下さったり、生け垣のゴミや草を取って下さったりしています。

ある朝「いつもきれいにゴミを取ってくださってありがとうございます。」と声をかけましたら、こんな言葉が返ってきました。「一つのゴミをそのままにしておく、ゴミを捨てやすくなる。いつもきれいにしておくことが、ゴミを捨てる連鎖を防ぐことになるからね。」この言葉を聞いて、こんな話を思い出しました。

熱い湯の中にカエルを入れると、カエルはどうなるでしょうか？・・・
熱くて、すぐに飛び出すのです。

では、ぬるま湯の中にカエルを入れ、徐々に熱くしていくとどうなるでしょうか？
ゆで上がって死んでしまうのです。死にいたるほどの熱さになっていることに気づかずに、飛び出すきっかけを失ってしまうからです。(青木靖著 悲しいゆでがえるの項より参照)

「地域の方の言葉」や「カエルの話」には、真摯に耳を傾ける必要があります。

「そのくらい目くじら立てるほどのことじゃないよ。小さなことだよ」と、ちいさな悪を見逃すことは、ぬるま湯につけて少しずつ熱していくのと同じことなのです。学校、家庭、地域が悪いことは見逃さずきちんと

指導する、非行の温床をつくらぬ環境づくり、に努めていくことが求められています。

本年度 PTA 重点3項目の推進

PTA 総会で、稲垣 PTA 会長より次のような決意が語られました。「本年度 PTA として、次の3項目については年間を通して徹底して取り組んでいきます。」

- 基準服の徹底
- 交通指導当番の遵守
- あいさつ運動の励行

3項目の推進は、落ちついた学校生活、子どもの安全、心の元気に寄与することまちがいありません。ご協力をお願いします。

安全意識啓発マップづくり

小3年生以上の児童が、学年ごとに見つけ、地図で通学路の危険箇所を特定し、保護者の活動を予定して支援を期待する。また、地域の積極的な支援を期待する。また、保護者の活動を予定して支援を期待する。また、保護者の活動を予定して支援を期待する。

こどもピースサミット2006 平和の歌声・意見発表会

5月27日(土)の午後、アステールプラザ中ホールにおいて、広島市教育委員会主催による標記の会が開催されました。

意見発表の部では、作文による一次審査を通過した20名の児童が、平和への熱い思いを自分の言葉で堂々とスピーチしました。

本校からも6年生の池田佳予さんが選ばれ、演台に立ちました。「おばあちゃんの涙が教えてくれた平和への第一歩」と題した原稿用紙5枚の内容を、聴衆の一人一人に訴えかけるように、見事なスピーチを行いました。この大会で大賞に選ばれた男女各1名が8月6日の記念式典でこども代表としてメッセージを述べます。池田さんは、大賞に次ぐ優秀賞に選ばれ、教育長から表彰状と盾を手渡されました。池田さんの素晴らしいがんばりに拍手を贈るとともに、平和について真剣に考え、作文に書いた6年生一人一人を讃えたいと思います。船越小学校6学年集団の力です。



優秀賞を受賞した5名

本校は本年度、「話す・聞く(対話)」力の育成に取り組みます。自分の思いや考えを上手に相手に伝えられる力、話し手の思いや考えを共感的に受けとめ、的確に聞き取る力を養いたいと考えています。コミュニケーション能力を高めることによって、好ましい人間関係が築けるようになればと願っています。そういった意味からもこの度の意見発表会に参加できたことは学校全体にとっても意義あることであったと思います。

ちょっと気になる ハナシ

財団法人日本青少年研究所が日米中韓の四カ国の高校生を対象に比較調査した結果を紹介します。

- ・現在大事にしていることとして成績がよくなることを挙げたのは
米国74.3% 中国75.8% 韓国73.8% **日本33.2%**
- ・「どんなタイプの生徒になりたいか」に「勉強がよくできる生徒」と答えた割合は
米中韓は67.4%~83.3%をしめたが、日本は・・・
- ・「失敗を恐れず未知なものに挑戦する生徒」「リーダーシップの強い生徒」と答えた割合も、**四カ国中最低の比率**であった。

逆に日本の高校生が「非常に興味がある」割合が高かったのは、漫画やドラマなど「大衆文化」(62.1%)、携帯電話やメール(50.3%)ファッションやショッピングなどの「流行」(40.2%)など。

未来志向の米中韓に対し、日本の高校生は現在志向が顕著で、「勉強しても良い将来が待っているとは限らない」と冷めた意識を持っていると指摘するのは、千石 保研究所長である。みなさんは どう思われますか？ (内外教育 NO5637 H18.3.14 ラウンジ参照)